

県政運営評価戦略会議からの「基本目標ごとの意見・提言」への対応方針等（行動計画）

資料3

番号	基本目標		意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
	旧計画	新計画			
1	1「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	移住・交流施策の推進については、非常に多くの取組がなされ、ほとんどの数値目標が達成されている一方で、主要指標である「転入・転出者数」をみると転出増加の歯止めについでいないので、これを食い止めることに焦点を当てた施策、取組等の再検証が必要ではないか。	東京圏への「転入超過数」の拡大が、一向に歯止めがかからない状況下において、本県の「転出超過数」は近年、「約2千人前後」で推移するなど、厳しい状況であるものの、これまでも移住施策をはじめとする「とくしま回帰」加速に向けた取組みを展開してきたところであり、昨年は過去最高「1,402人」の移住者数を記録したことをはじめ、様々な取組みで地方創生の成果は確実に出ており、その結果、「転出超過」が現状維持で踏みとどまっているものと認識しています。 （2020年からスタートする「新たな総合戦略」では）今後、転出入の均衡に向けて、「光応用・専門人材の育成」や「光関連産業の振興」を通じた若者にとって魅力ある就学環境の整備や就業機会の創出、「ふるさと教育」をはじめとした「地方創生人材」の育成などに取り組み地元定着を図って参るとともに、「高校生・大学生」などの「若者」、「女性目線」、「大阪圏」といった視点での対策強化を図って参ります。	政策
2	1「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	学生の学習、生活及び就職の支援をはじめとする様々な分野での「人材育成施策」は、ゆくゆくは徳島への貢献を期待してのものであるので、今後は「人材育成施策」と「県内定着施策」の密接化を一層図ってほしい。	「徳島県キャリア教育推進指針Ⅱ（H31年3月策定）」に基づき、とくしまの良さや強みを知り、学んだことを活用する仕組みづくりを推進するため、小学校・中学校・高等学校を対象に、県内経済団体等と連携したキャリア教育出前講座や県内企業バスツアー等を実施しています。 また、学生の県内就職率向上を目指し、県内高等教育機関・県・企業及び団体で実施する「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」において、大学生のボランティア活動を単位として認定する「ボランティアパスポート制度」等を推進し、地域の課題解決に挑戦し、地域社会に貢献できる人材育成を図っているところです。 こうした取組みを引き続き積極的に行うとともに、学生が県内で就職した際に奨学金の返還を支援する「奨学金返還支援制度」の取組みと併せて、今後とも若者の地元定着・県内就職を促進して参ります。	政策教育
3	2「経済・好循環とくしま」の実現	3「発展とくしま・革新創造」の実装	公共部門による民間経済への各種支援は、既存の企業等を守ることもさることながら、これからの新しい人、企業、産業に対する支援が一層重要であると考えられるので、今後はさらにも積極的に力を入れる必要がある。	AIやIoT等の革新技術の社会実装が進展し、企業の経営環境が大きく変わっていくなか、「Society5.0」に向け、新たな企業誘致や新規創業、また、第4次産業革命に対応できる人材育成研修の実施等に取り組んでいるところです。 御提言を踏まえ、新たに県立の職業能力開発施設であるテクノスクールの機能強化や、イノベーション人材を育成するための平成長久館「特別塾」の開講など、県内企業の革新技術の早期実装に向けた支援に取り組んで参りたいと考えております。	商工
4	2「経済・好循環とくしま」の実現	3「発展とくしま・革新創造」の実装	農林水産分野の人材育成が、「国の重要文化的景観」に認定された上勝町「檜原の棚田」や伐期を迎えた「徳島の木」など、放っておけば失われる「目の前の資源」の保全や活用につなげて、地域経済も回っていくようなマネジメントをしてほしい。	農林水産分野の人材育成については、リカレント教育による多様な担い手の育成強化を図ることとしており、担い手が地域でしっかりと活動できるよう、例えば、多面的機能支交代付金や棚田基金等を活用した棚田保全の取組みや、県産木材の生産から消費まで一貫した取組みを推進する「スマート林業プロジェクト」などを展開することとしています。	農林

番号	基本目標		意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
	旧計画	新計画			
5	3「安全安心・強靱とくしま」の実現	2「強靱とくしま・安全安心」の実装	県立高校の防災クラブが全校に設置できたということだが、今後は、その在り方が、お仕着せではなく高校生の自由な発想で自主的に活動できるものであること、そしてそれを保障することが、次代を担う高校生の防災力を更に高めるために必要ではないか。	今後は、防災活動に取り組む高校生を中心に、防災士の資格取得を支援し、防災クラブを活動拠点として地域と連携した防災訓練の実施や防災ボランティア活動等に取り組むことにより、地域防災の担い手となる人材として育成を図ります。 また、小・中・高・特別支援学校の教員の防災士の資格取得を支援し、防災クラブや地域と連携した防災活動などの指導的役割を担い、学校や地域における減災及び防災力の向上を図るよう取り組んで参ります。	教育
6	3「安全安心・強靱とくしま」の実現	2「強靱とくしま・安全安心」の実装	交通事故による死者数をゼロに近づけるためには、道路構造を改良する際、急停止しやすくなるような路面加工を採用するのではなく、そもそもスピードが出せないような路面構造にするとか、思い切って車両の進入を禁止するといった発想の転換も必要ではないか。	全国の交通死亡事故のうち、歩行中・自転車乗車中の死者数が約半数を占めており、そのうち約半数は自宅付近の道路で発生していることから、国が中心となって生活道路の交通安全対策を推進しています。 具体的には、市町村において登録が進められている「生活道路対策エリア」について、国等の技術的支援のもと、ビックデータを活用して速度超過、急ブレーキ発生、抜け道等の潜在的な危険箇所を特定し、道路構造による対策として、凸部（ハンブ）や狭さく等を効果的、効率的に設置することにより、速度抑制や通過交通の進入抑制を図るなど、面的対策について検討が進められているところであり、県としても積極的に参画しているところです。 今後も、警察、教育委員会、PTA、地元自治会等と連携しながら、通学路をはじめとする生活道路における「安全で安心な道路空間の創出」に取り組んで参ります。	県土
7	4「環境首都・新次元とくしま」の実現	5「循環とくしま・持続社会」の実装	自然エネルギーの導入拡大については、そもそも都道府県単位で線引きすることが適切でない部分もあるので、他府県との連携も含めた広域的な普及策にも取り組むべきである。	自然エネルギーの導入拡大については、国を挙げて取り組むことが必要であると認識しています。現在、34道府県と民間企業からなる「自然エネルギー協議会」の会長県として、国に対する政策提言を行っており、地域の自然エネルギーの最大限活用や事前防災のための、電力系統の弾力的運用や増強に向けた仕組みづくりなど一定の成果を上げているところです。今後とも、広域的な取組を積極的に進めて参ります。	県民
8	4「環境首都・新次元とくしま」の実現	5「循環とくしま・持続社会」の実装	エネルギーの地産地消については、その進捗度合いを測る指標として市町村数や地区数が挙げられているが、今後は、全体のエネルギー消費量に占める「地産地消エネルギー」の割合や「自然エネルギー」の割合等といった、より直接的な指標を導入してもらいたい。	本計画では、県内電力需要量に対する自然エネルギーの供給量（自然エネルギーによる電力自給率）を指標として導入しています（'17）26.7%→（'22）30.55%）。今後は本目標の達成を通して、「自然エネルギー立県とくしま推進戦略」に掲げる「電力自給率（2030年）50%」の達成に向けて、積極的に取り組んで参ります。	県民

番号	基本目標		意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
	旧計画	新計画			
9	5「みんなが元気・輝きとくしま」の実現	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	アクティブシニアの多様な働き方の支援については、「徳島県版『介護助手』制度」、「徳島県版『保育助手』制度」に引き続き、更なる活躍の場、輝ける場の開拓に期待する。	アクティブシニアの皆様が、これまでに培ってきた知識・能力を活かし、地域を支える主役として活躍いただけるよう、シルバー大学校・大学院等の生涯学習の内容の充実に取り組みとともに、福祉人材センターやシルバー人材センターなど、関係団体等と連携を図りながら、多様な活躍の場の確保・提供に努めて参ります。	県民保健
10	5「みんなが元気・輝きとくしま」の実現	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	高齢者の生涯学習のため、ケーブルテレビ網を活用した在宅での「徳島県活き活きシニア放送講座」が開かれ、毎年度70名前後の受講者があることは評価できるので、引き続き、内容をバージョンアップさせながら、高齢者の生きがいづくりに寄与してもらいたい。	全ての高齢者に受講の機会を提供する「活き活きシニア放送講座」の内容については、「シルバー大学校の講座」や「放送大学校」が開講している「学びの森講演会」等から「健康、防災、歴史」等、高齢者のニーズが高く、社会情勢を捉えたテーマを選定しています。 引き続き、高齢者の方の能力の再開発や地域貢献活動への参加のきっかけとなるよう内容の充実に努め、高齢者の生きがいづくりを推進して参ります。	保健
11	6「まなび・成長とくしま」の実現	3「発展とくしま・革新創造」の実装	グローバル人材の育成については、外国語自動翻訳機の普及が目前の今、語学習得に力点を置いたプログラムはもはや時代遅れになりつつあるので、今後は、世界の人々に徳島、日本の文化や歴史を語るができる力を培う教育プログラムを整備するべきではないか。	県が実施する小中高校生対象の英語体験活動の中で、徳島の特色や魅力を英語で紹介するプロジェクトを実施しており、グローバル人材として活躍するために必要なスキルの養成に取り組むとともに、小学校では、県が作成した徳島の四大モチーフ等を扱った英語デジタル教材を授業で活用することにより、今後も徳島や日本の魅力を世界に発信することを早い段階から意識するような土壌づくりを進めて参ります。 また、「あわ文化」の継承と新たな創造を担い、ふるさと徳島の魅力を発信する中高生を対象とした「あわっ子文化大使」の育成などを通じ、次代の人材の育成を図って参ります。	教育
12	6「まなび・成長とくしま」の実現	4「躍動とくしま・感動宝島」の実装	トップアスリートの養成は、競技人口が減少し、有望選手が県外に引き抜かれる現状では難しいので、今後は、幼い頃からずっと徳島でスポーツを続けられる環境づくりとともに、有望選手を特定の学校に集結させるのではなく、学校間での競争を生む、切磋琢磨しながら勝ち上がっていくシステムづくりが必要ではないか。	競技団体や各体育連盟等との連携を深め、合同練習会や講習会等を実施し、多面的な運動部活動の魅力を発信することで、選手の発掘と県内での継続育成に取り組むとともに、一定の高い競技レベルに達した選手においても、徳島県で、全国上位を目指すためのモチベーションにつながるよう、魅力ある競技環境の整備に努めて参ります。 また、「NEO徳島トップスポーツ校強化事業」において、トップスポーツ指定校を各競技の育成・強化の中心校として、スポーツキャンプや合同練習を実施し、選手間の交流や切磋琢磨を促すよう支援します。	県民教育

番号	基本目標		意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
	旧計画	新計画			
13	7「大胆素敵・躍動とくしま」の実現	3「発展とくしま・革新創造」の実装	大型クルーズ客船の誘致については、旅行企画会社へのセールスだけではなく、停泊地の決定について大きな権限を持っていると聞く船会社や船長へのセールスも怠らないようにするとともに、魅力ある港の整備に尽力してもらいたい。	クルーズ客船の誘致については、船社、旅行会社へ徳島の魅力を紹介するポートセールスや、商談会でのPRにより取り組むとともに、クルーズ客船寄港時には入出港時の安全対策はもとより「徳島ならではのおもてなし」やシャトルバス運行による乗船客や船員の満足度や利便性の向上に努め、「徳島への再寄港」へつながるよう取り組んでいます。 今後については、さらなる徳島の魅力発信や「おもてなし」の充実を図り、船長や船員、乗船客の皆さまに徳島の魅力を感じていただき、「再び徳島に来てみたい」と思っただけのよう積極的なクルーズ客船の誘致活動を展開して参ります。	県土
14	7「大胆素敵・躍動とくしま」の実現	1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	一層のインバウンド誘客のため、レンタカーよりも鉄道やバス、自転車での移動を好む一部の外国人の方にも利便性を実感してもらえるような公共交通の充実を速やかに図ってもらいたい。	利用者の減少に加え、運転手不足などにより、地域公共交通を取り巻く環境は厳しい状況にあります。本県においては、 ・訪日外国人路線バスフリー乗車券の発行 ・路線バスの多言語表記への支援 ・「JR四国初」となる牟岐線への「パターンダイヤ」の導入 ・「DMV(デュアル・モード・ビークル)」の「世界初」となる本格営業運行に向けた整備 などにより、地域住民にとっては「生活交通」、インバウンド客にとっては「二次交通」となる地域公共交通の維持・充実に取り組んでいます。 今後とも、駅等交通結節点の環境整備、運行ダイヤの「オープンデータ化」の推進などにより、本県を訪れる多くのインバウンド客が快適に県内を移動できるよう取り組んで参ります。	県土